

温暖化 海面1.1メートル上昇

2100年予測 IPCC 漁獲量最大24%減

地球温暖化の影響を評価する国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」は25日、温暖化対策

が十分に進まなかった場合、2100年に海面水位が最大で1.1メートル上昇するとして特別報告書を公表した。前回の2013年の

報告書に比べ、海面の上昇幅が大きく深刻度が増した。

報告書では、南極の氷が解ける影響などを詳細に分析し、予測精度を向上。対策が不十分だった場合、1986～2005年の平均海面に比べ、2100年

は最大で1.1メートル上昇すると推定した。上昇幅は13年の報告書より10センチ増えた。2300年には最大5.4

メートルに達する恐れがある。海面上昇はすでに、2006～15年に年3.6センチと、1901～90年の2.5倍の速さとなっている。

報告書は、温暖化で海洋が酸性化するなどして世界の漁獲量が今世紀末、1986～2005年の漁獲量と比べて最大24.1%減少することや、魚種が変わる可能性も指摘した。全世界の氷河が2100年までに、最大で約半分消失する恐れもある。

沿岸部の都市などでは、これまで100年に1回しか起きなかった高潮に見舞われる頻度が高くなる。

△解説 37面▽